

— 錦織 佳代子 —

いっしょ  
そばに電子辞書

昔、娘がプレゼントしてくれたのが使えなくなる電気店へ。3万~4万円! シンプルなのがいい!

CASIO EX-VIVO  
リサイクルショップで1000円!

通信を書くときもテレビを見るときも頼りにしてる

文字大きい、たくさん機能がついているけど、私は漢字と意味がわかればいい。

2年前から愛用してます。

線切り大根の甘酢(自己流)

分量は適当に  
大根を線切り。スライサーでおろすとラク。(木目に)  
軽くしぼって水切り。  
ここに果物などを切って入れ、ポン酢、レモンほろ汁、酢などとほろゆ。塩少々で味を。  
干し柿、りんご、キウイなど  
ハム、ちくわ、ちりめんいりこなども。  
干し柿をもってきくれた妹に、大根と合わせるとおいしいよと言うと、「前から作ってる」とのこと。私はこの冬思いついた作品。皆さんももう作ってみませんか?  
2~3日分すぐでき

スズメ [雀]

□ スズメ目ハナオリドリ科の鳥。人家周辺の農耕地に普通に見られ、全長14cmくらい……この辞書でこのあとスズメのつく言葉が沢山続く。すずめ色、すずめおどり、すずめかぐれ、すずめ合戦、すずめのえんとつ……着た切り雀、雀の涙、雀の踊り足、雀百まで踊り忘れず……

昔話や、絵本に欠かせないスズメ。電線にもスズメととまっていた。

今はわかやどしか見ることがない。今や絶滅危惧種に近い。温暖化、農薬、木造建築の減少、様々な原因。すずめ……



朝夕、スズメにエサをやるのはG.O.R.I.さんの表の庭はハトが来るので、うらのエサ場へ。

読書ノート

● 日本の昔話 柳田国男著 新潮文庫

本棚にあった文庫本。きれいなブックカバーをかけてある。白い麻地に刺しゅうで「客船」と2羽のカモメ。海は紺地。うしろの折り返しを開くと「K子さん2014.7」とある。K子さんかうちへ来てくれたときにもったカバー。数年前、彼女は亡くなった。まだ60代はじめだったと思う。私が会社勤めのとき入社した新入社員、京大卒の彼女は、子供の本についてよく知っている。「子どもに本を読み聞かせるのがなく、聞き手の目を見ながら物語を語る。「ストーリー・テリング」を教えられた。私も短かいお話を覚えようと努力したが」とも覚えられなかった。いろんなことを思い出す BOOK COVER.

この本は民族学者柳田国男が国内の隅々に残る昔話を収集、後世に伝えている。私は夜べッドに入ってから開いたページをたのしんで読んでいる。幼いころ私も祖母やおば、近所の人から「館買い女」を何度も聞いた。髪が長い女が每晚アメを買いに来たという館屋は、また川向こうにあった。夜中に赤子の泣き声かきこえたお寺は、実家のすぐ近く。今、孫たちに聞かせて通じらさうか。スマホもテレビもない時代、やぐらにたつや縁台に近所の人か寄ってきていろんな話をした。くらしに必要な知識やわざは、いろんな大人から自然に教えられた。子どもの声、スズメやツバメ、トビ、カラス、フナやメダカ、シジミ、カニ、カエル……。平和だった。

今年も咲いた、白くうす紫の花。この花の好きなの花です。

日本のあちこちで豪雨、豪雪、一方で少雨、渇水、火災、そして政治も経済も世界中なんともいって時代がどうなるかわからない。私の体調はだいたいよくない。たが病院の都合もある。手術は2月に又延期。